



2024年度 決算説明

証券コード：6908

2025年5月7日

IRISO 電子工業株式会社
IRISO ELECTRONICS CO.,LTD.

私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します
Together, surpassing expectations by empowering connections
to enrich society and delight people.



-  **I. 2024年度 業績概要**
- II. 2025年度 業績見通し**
- III. トピックス**

1. 2024年度通期決算のポイント

■売上高：563億円、前年比＋1.9%

- ・過去最高を更新
- ・自動車生産台数は日欧米地域の不振により、期初想定比で約300万台減少するも、3Q時修正計画比では中国地域の売上が想定以上で、約13億円上振れ
- ・モビリティ市場のパワートレイン分野は中国地域でEV販売が好調により伸長
- ・モビリティ市場のインフォテインメント分野は高速伝送対応可動BtoBコネクタが前年比約300%と大幅増加

■営業利益：53億円、前年比－10.6%、営業利益率：9.4%

- ・原材料、人件費、輸送費等の高騰、新ERP・秋田工場立上げ費用増に対して、原価低減の推進により減益幅を抑制
- ・2Q以降は営業利益率10%超を維持

■その他

- ・営業キャッシュフローマージン率は、21.4%と20%超を維持
- ・構造改革により19.9億円を特別損失として計上
- ・株主還元の拡充として、58億円（209万株）の自己株式の取得を実施

2. 業績概況

単位：百万円

	2023年度 累計	2024年度					2024年度 累計 前年比			
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計	増減額	増減率	為替影響	為替影響 除き
売上高	55,271	12,534	14,624	15,009	14,163	56,332	+1,061	+1.9%	+2,326	54,006
営業利益	5,936	190	1,929	1,762	1,425	5,307	▲629	▲10.6%	▲100	5,407
営業利益率	10.7%	1.5%	13.2%	11.7%	10.1%	9.4%		▲1.3pts		10.0%
EBITDA	12,263	1,972	3,645	3,595	3,186	12,400	+136	+1.1%	▲100	12,500
EBITDA率	22.2%	15.7%	24.9%	24.0%	22.5%	22.0%		▲0.2pts		23.1%
為替:ドル/円	144.40	156.53	148.37	154.16	151.32	152.48	+8.08	+5.6%		

【ご参考】ERP切り替えによる売上前倒し影響除き

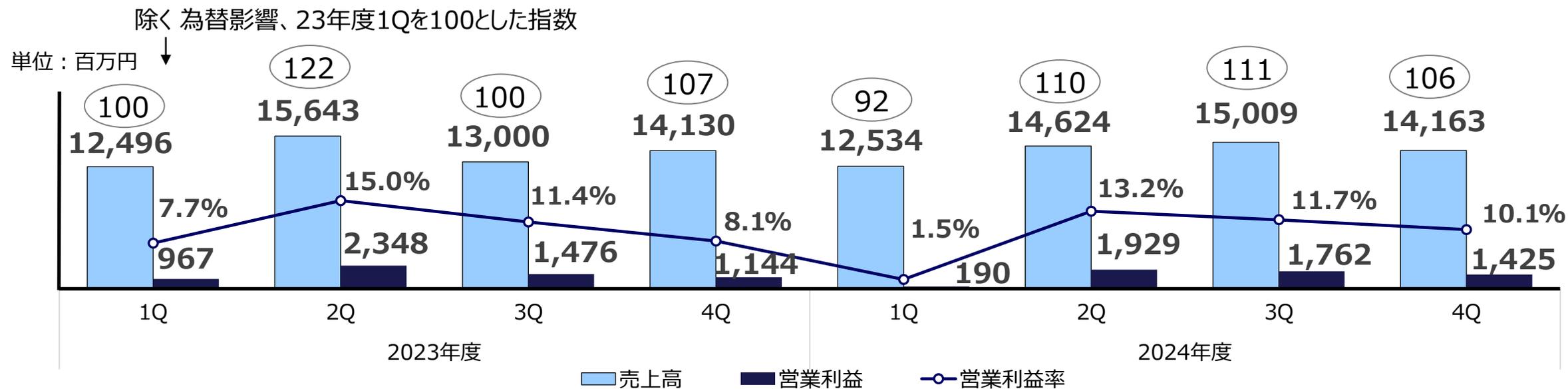
単位：百万円

	2023年度 累計	2024年度					2024年度 累計 前年比			
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計	増減額	増減率	為替影響	為替影響 除き
売上高	54,571	13,234	14,624	15,009	14,163	57,032	+2,461	+4.5%	+2,326	54,706
営業利益	5,607	519	1,929	1,762	1,425	5,636	+28	+0.5%	▲100	5,736
営業利益率	10.3%	3.9%	13.2%	11.7%	10.1%	9.9%		▲0.4pts		10.5%
EBITDA	11,934	2,300	3,645	3,595	3,186	12,729	+794	+6.7%	▲100	12,829
EBITDA率	21.9%	17.4%	24.9%	24.0%	22.5%	22.3%		+0.4pts		23.5%

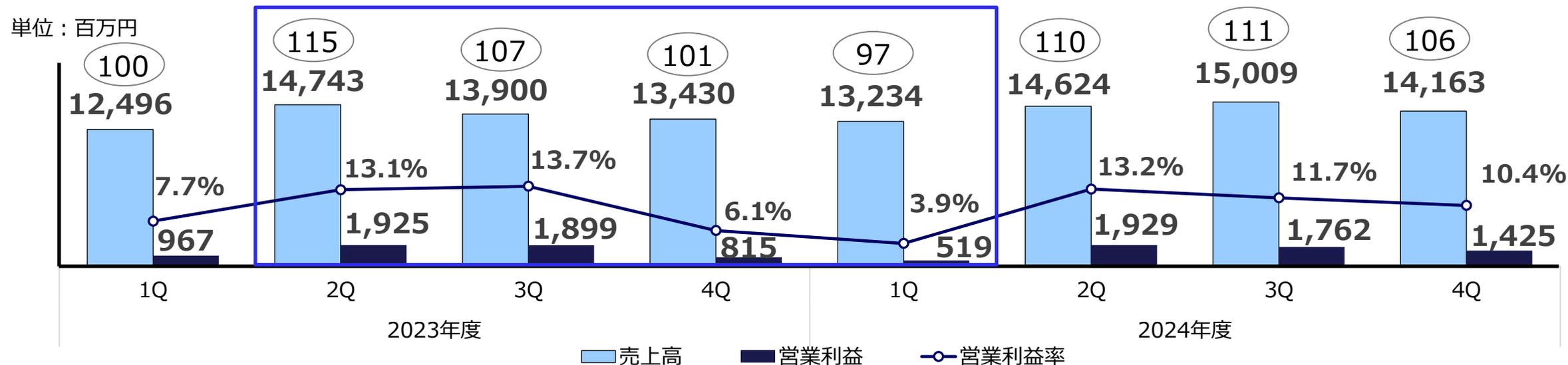
■ ERP切替影響を除く前年比で、売上高+4.5%増収、為替影響を除き+1.3億円増収。営業利益+0.3億円増益

※EBITDA：営業利益+減価償却費

3. 四半期別売上高・営業利益推移



【ご参考】ERP切り替えによる売上前倒し影響除き(23年度2Q←3Q、23年度4Q←24年度1Q)



4. 2024年度 連結決算の概要

単位：百万円

	2023年度	構成比	2024年度	構成比	増減額	増減率	計画比
売上高	55,271	100.0%	56,332	100.0%	+1,061	+1.9%	+1,332
モビリティ	47,823	86.5%	48,548	86.2%	+725	+1.5%	+998
消費者	4,338	7.8%	4,623	8.2%	+284	+6.6%	+73
インダストリアル	3,109	5.6%	3,160	5.6%	+51	+1.6%	+260
売上原価	38,133	69.0%	38,391	68.2%	+257	+0.7%	
販売管理費	11,200	20.3%	12,633	22.4%	+1,433	+12.8%	
営業利益	5,936	10.7%	5,307	9.4%	▲629	▲10.6%	+607
税引前利益	6,869	12.4%	3,217	5.7%	▲3,652	▲53.2%	+1,467
当期純利益	5,593	10.1%	2,662	4.7%	▲2,930	▲52.4%	+1,312
EPS	237.75円		118.25円				
為替レート	ドル：144.40円		152.48円		+8.08円	+5.6%	+0.28円
期中平均	ユーロ：156.80円		163.62円		+6.82円	+4.4%	▲0.16円
	元：20.14円		21.10円		+0.96円	+4.8%	+0.06円

【ご参考】ERP切り替えによる売上前倒し影響除き

売上高	54,571	100.0%	57,032	100.0%	+2,461	+4.5%	
モビリティ	47,123	86.4%	49,248	86.4%	+2,125	+4.5%	
営業利益	5,607	10.3%	5,636	9.9%	+28	+0.5%	

5. 売上・利益変動要因（2023年度比）

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業利益率	要因
2023年度 実績	55,271	5,937	10.7%	
ERP切り替え影響	▲1,400	▲660		24年1Q→23年4Q前倒し影響：7億円
為替影響	+2,325	▲100		USD: 144.4円→152.48円(106%) EUR: 156.8円→163.62円(104%) CNY: 20.14円→ 21.1円(105%)
物量増減	+136	+65		
材料費増		▲1,110		素材市況価格高騰
固定費増		▲440		賃金引上げ、エネルギー費高騰、新ERP・秋田新工場建設費用増を、 人員・経費抑制推進
原価低減他		+1,615		収益構造改善による原価低減、売価ダウン他
変動要因 計	+2,461	+30		
2024年度 実績	56,332	5,307	9.4%	

6. 財務狀況

単位：百万円

	2023年度	2024年度	前年末比
流動資産	56,093	52,209	▲3,884
現金及び預金	26,692	24,314	▲2,378
売掛債権	15,010	12,789	▲2,221
棚卸資産	12,616	13,482	+866
固定資産	40,762	39,161	▲1,600
資産合計	96,856	91,370	▲5,485
負債合計	19,839	20,173	+334
買掛債務	5,466	4,689	▲776
借入金	6,825	9,322	+2,496
純資産合計	77,016	71,196	▲5,820
株主資本計	62,498	57,398	▲5,100
自己資本比率	78.7%	77.3%	▲1.4pts

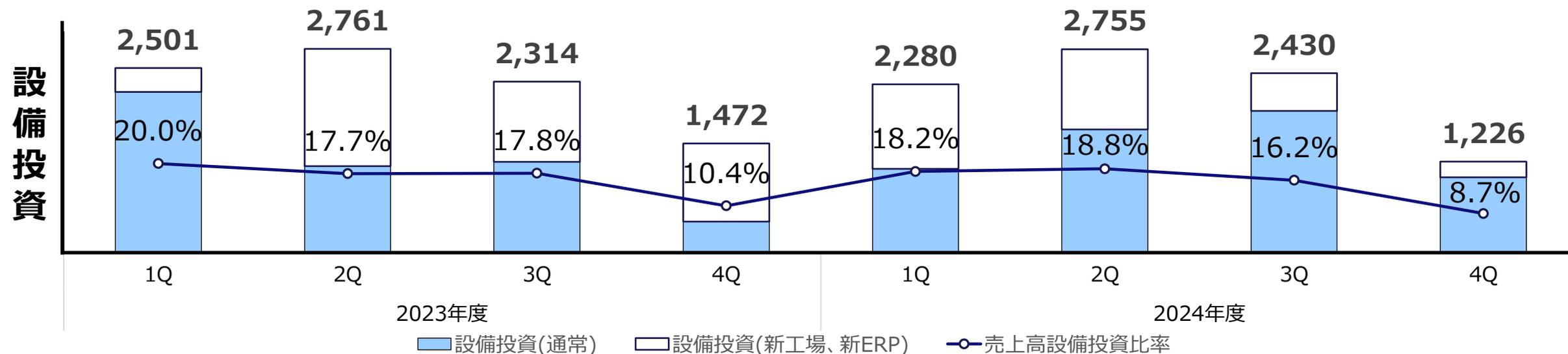
7. キャッシュフロー

単位：百万円

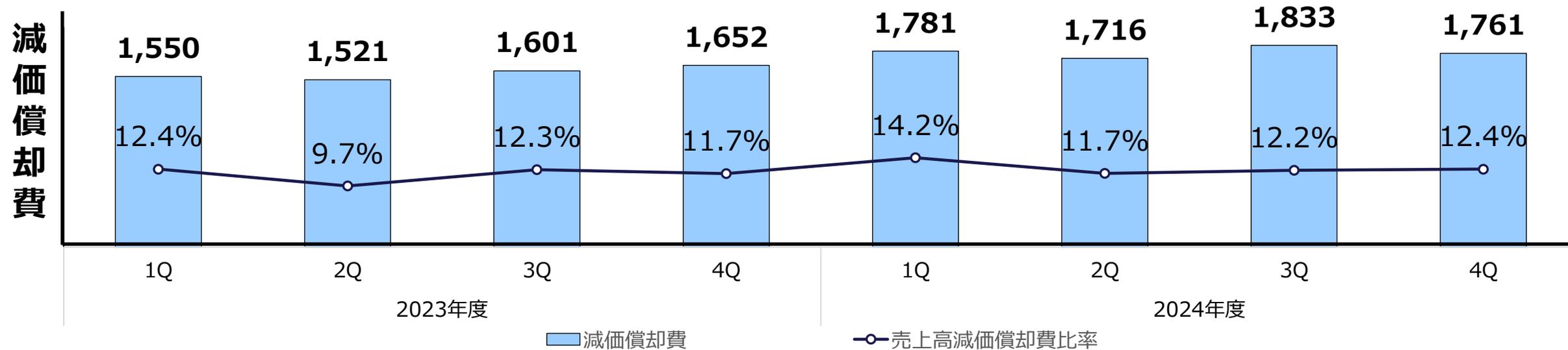
	2023年度	2024年度	増減
営業キャッシュフローマージン率	23.4%	21.4%	▲2.0pts
営業キャッシュフロー	12,934	12,043	▲890
税引前利益	6,869	3,217	▲3,652
減価償却費	6,326	7,092	+766
運転資金増減(▲は増加)	1,170	424	▲745
投資キャッシュフロー	▲9,089	▲8,778	+311
有形固定資産	▲7,827	▲8,608	▲780
フリーキャッシュフロー	3,845	3,265	▲579
財務キャッシュフロー	2,313	▲5,495	▲7,808
配当金・自己株式の取得	▲1,893	▲7,893	▲5,999
現金及び現金同等物期末残	26,692	24,314	▲2,378

8. 設備投資・減価償却費推移

単位：百万円



単位：百万円



9. 地域別・製品別売上高

■ 地域別

単位：百万円

	2023年度		2024年度						累計 前年比	
	累計	構成比	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	構成比	増減額	増減率
日本	9,743	17.6%	1,810	2,336	2,426	2,458	9,031	16.0%	▲712	▲7.3%
中華・韓国圏	21,761	39.4%	5,105	6,275	7,469	6,065	24,916	44.2%	+3,155	+14.5%
アメリカ	6,632	12.0%	1,598	1,612	1,188	1,390	5,790	10.3%	▲842	▲12.7%
欧州	9,652	17.5%	2,305	2,418	2,023	2,426	9,173	16.3%	▲478	▲5.0%
ASEAN	7,480	13.5%	1,714	1,981	1,901	1,821	7,419	13.2%	▲60	▲0.8%
合計	55,271	100.0%	12,534	14,624	15,009	14,163	56,332	100.0%	+1,061	+1.9%
<small>【ご参考】 ERP影響除く</small>	54,571		13,234	14,624	15,009	14,163	57,032		+2,461	+4.5%

■ 製品別

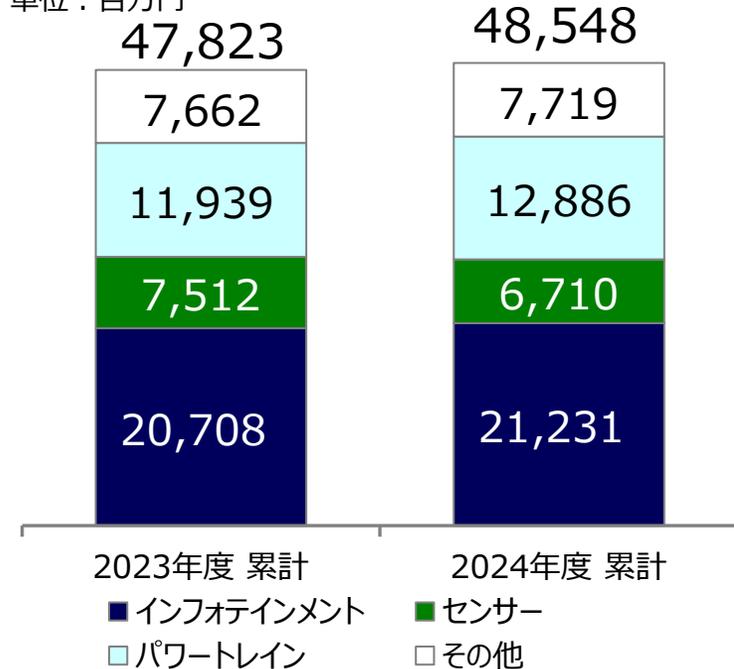
単位：百万円

	2023年度		2024年度						累計 前年比	
	累計	構成比	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	構成比	増減額	増減率
BtoB	24,165	43.7%	5,333	5,918	5,989	5,965	23,206	41.2%	▲958	▲4.0%
FPC	11,078	20.0%	2,649	3,186	3,032	2,613	11,482	20.4%	+403	+3.6%
車載 IF/WtoB	16,076	29.1%	3,630	4,457	5,025	4,595	17,708	31.4%	+1,632	+10.2%
ピンヘッド	2,675	4.8%	553	575	558	508	2,196	3.9%	▲479	▲17.9%
その他	1,275	2.3%	367	486	404	480	1,738	3.1%	+463	+36.4%
合計	55,271	100.0%	12,534	14,624	15,009	14,163	56,332	100.0%	+1,061	+1.9%

10. 市場別売上：モビリティ

■ 前年比+725百万円 (+1.5%)

単位：百万円



インフォテインメント

- ・累計前年比: +2.5%
- ・液晶パネルやIVI用の高速伝送対応可動BtoBコネクタが堅調

センサー

- ・累計前年比: ▲10.7%
- ・搭載車種の台数減と、一部の機器での構造変化によりレーダー向けは減少
- ・カメラ向けは自動車生産台数の影響を受けるも、顧客拡大により売上維持

パワートレイン

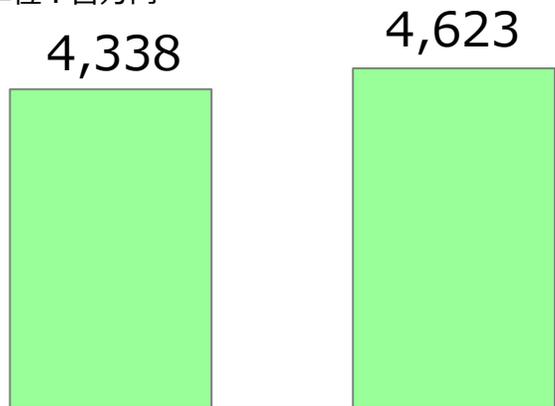
- ・累計前年比: +7.9%
- ・BMS(Battery Management System)用の車載IF/WtoBコネクタ、インバーター用の三次元可動BtoBコネクタ“Z-Move™”が堅調

	2023年度				2024年度				YoY	QoQ
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
インフォテインメント	4,668	5,606	4,797	5,635	4,909	5,583	5,366	5,372	▲4.7%	+0.1%
センサー	1,825	2,069	1,753	1,862	1,659	1,672	1,755	1,622	▲12.9%	▲7.6%
パワートレイン	2,190	3,674	3,091	2,983	2,656	3,288	3,725	3,215	+7.8%	▲13.7%
その他	1,849	2,101	1,800	1,911	1,719	2,088	1,943	1,968	+3.0%	+1.3%
合計	10,534	13,452	11,442	12,393	10,944	12,632	12,791	12,179	▲1.7%	▲4.8%
【ご参考】ERP影響除き	10,534	12,552	12,342	11,693	11,644	12,632	12,791	12,179	+4.2%	▲4.8%

11. 市場別売上：コンシューマー・インダストリアル

■コンシューマー市場：前年比+284百万円 (+6.6%)

単位：百万円



2023年度 累計

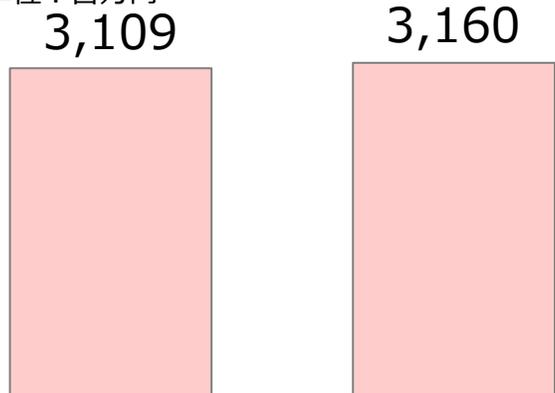
2024年度 累計

- ・4Q累計：プリンター、デジカメ向け中心に売り上げ拡大
ゲーム機向けは下振れ継続
- ・4Q単独：今期3Q比で、季節要因により、全般的に減少

2023年度				2024年度				YoY	QoQ
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
1,130	1,307	835	1,065	1,042	1,319	1,227	1,034	▲2.9%	▲15.7%

■インダストリアル市場：前年比+51百万円 (+1.6%)

単位：百万円



2023年度 累計

2024年度 累計

- ・4Q累計：FA関連機器向けの販売不振継続も、エネルギー管理分野向け開拓により、前年比ほぼ同水準を維持
- ・4Q単独：今期3Q比でFA機器向けが増加

2023年度				2024年度				YoY	QoQ
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
831	884	722	671	547	673	990	949	+41.5%	▲4.1%



I. 2024年度 業績概要

 **II. 2025年度 業績見通し**

III. トピックス

1. 2025年度通期業績予想のポイント

■ 売上高：550億円、前年比-2.4%（為替影響除きでは+1.6%）

- ・モビリティ市場：自動車生産台数は8,800万台と前年比減を想定。
インフォテインメント分野での増加を見込み、為替影響除きで+2%
- ・インダストリアル市場：エネルギーマネジメント分野向けの拡大
- ・為替前提：145円/ドル、162円/ユーロ、20円/人民元

■ 営業利益：55億円、前年比+3.6%、営業利益率：10.0%

- ・秋田工場稼働開始に伴う固定費増加、原材料や人件費高騰影響を、構造改革効果と原価低減の推進により抑制し、増益
- ・構造改革効果は約8.1億円を見込む（2026年度以降は8.9億円予定）

■ 配当：110円、前年比+10円

- ・2026年度目標の配当性向40%超またはDOE5%に向けて10円増配を計画
- ・自己株式の取得は機動的に実施予定

■ アメリカ関税政策のリスクと生産対応 ※日本時間5/2時点の情報を基に試算。業績予想には未反映

- ・売上減リスク：北米での自動車販売台数減少：▲約10億円
グローバルでの自動車販売台数減少：▲約25億円
- ・生産対応：アメリカ本土向けの生産地を高税率である地域の工場から、最適地へ移管

2. 2025年度 市場別売上高計画

単位：百万円

	2023年度		2024年度		2025年度				主な要因
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	前年比		
							為替込み	為替除く	
モビリティ計	47,823	86.5%	48,548	86.2%	47,650	86.6%	▲1.9%	+2.1%	グローバルでの自動車生産台数は前年比減少を想定
インフォテインメント	20,708	37.4%	21,231	37.7%	21,900	39.8%	+3.1%	+7.1%	高速伝送対応可動BtoBコネクタの増加
センサー	7,512	13.6%	6,710	11.9%	6,100	11.1%	▲9.1%	▲5.3%	レーダー向けで減少、カメラ向けは中国向けが増加
パワートレイン	11,939	21.6%	12,886	22.9%	12,400	22.5%	▲3.8%	+0.1%	中国で三次元可動BtoBコネクタZ-Move中心に搭載増
その他	7,662	13.9%	7,719	13.7%	7,250	13.2%	▲6.1%	▲1.9%	
コンシューマー	4,338	7.8%	4,623	8.2%	3,900	7.1%	▲15.6%	▲11.5%	ゲーム機向けの減少
インダストリアル	3,109	5.6%	3,160	5.6%	3,450	6.3%	+9.2%	+12.1%	エネルギー管理分野向けの増加
合計	55,271	100.0%	56,322	100.0%	55,000	100.0%	▲2.4%	+1.6%	

3. 2025年度 業績予想

単位：百万円

	2024年度 実績	2025年度 予想	前年比	
			増減額	増減率
売上高	56,332	55,000	▲1,332	▲2.4%
売上原価率	68.2%	67.5%		▲0.7pts
営業利益	5,307	5,500	+192	+3.6%
営業利益率	9.4%	10.0%		+0.6pts
税引前利益	3,217	5,200	+1,982	+61.6%
当期純利益	2,662	3,900	+1,237	+46.5%
EPS	118.25円	188.65円		
為替レート 期中平均	ドル：152.48円 ユーロ：163.62円 元：21.10円	145.00円 162.00円 20.00円	▲7.48円 ▲1.62円 ▲1.10円	▲4.9% ▲5.3% ▲5.2%
設備投資	8,693	6,300	▲2,393	-
減価償却	7,092	7,200	+107	-
配当	100円	110円	+10円	-

4. 売上・利益変動要因（2024年度比）

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業 利益率	要因
2024年度 実績	56,332	5,307	9.4%	
為替影響	▲2,060	+120		USD: 152.48円→145.00円(95%) EUR: 163.62円→162.00円(99%)
物量増減	+728	+342		
材料費増		▲1,520		素材市況価格高騰
固定費増		▲910		賃金引上げ、エネルギー費高騰、秋田新工場立上費用増を、 人員・経費抑制推進
構造改革効果		+810		生産拠点の役割見直しによる生産効率改善と新ERPによる業務効率 改善の実現に向けた、構造改革実施による原価構造の改善効果
原価低減他		+1,350		原価低減の推進、売価ダウン他
変動要因 計	▲1,332	+192		
2025年度 計画	55,000	5,500	10.0%	

5. 構造改革の進捗

- 2025年2月から、生産拠点の役割見直しによる生産効率改善と新ERPによる業務効率改善の実現に向け、構造改革を実施し、原価構造の改善を推進中

構造改革の施策	状況		構造改革費用 (24年度業績に反映済)	年間効果額
<ul style="list-style-type: none"> 茨城工場の機能見直し <ul style="list-style-type: none"> 量産製品の秋田工場への移管による生産効率向上 試作・サンプル製作等エンジニアリングセンター、並びに部品供給拠点として再整備 	<ul style="list-style-type: none"> 進行中 関連する土地・建物、設備、金型を24年度に構造改革費用として特別損失に計上 対象資産を精査し、想定より年間効果額が増加 	当初見込み	約18.9億円	約2.6億円
<ul style="list-style-type: none"> 日本国内の人員最適化 50歳以上の社員を対象に希望退職者募集を実施(国内人員の約10%) 	<ul style="list-style-type: none"> 応募者数：35名(国内人員の約6%) 特別退職金および再就職支援費用を24年度に構造改革費用として特別損失に計上 応募が想定を下回ったため、費用、効果額ともに減少 	当初見込み	約5.6億円	約4.4億円 ※25年度は約3.3億円
		結果	2.4億円	約3.1億円 ※25年度は約2.3億円

6. 2025年度 重点施策

■ 中期経営計画の進捗状況を踏まえ、25年度は短期を含めた売上増加施策と収益力回復施策に取り組む

	項目
ビジネス 拡大	<p>[モビリティ市場]</p> <ul style="list-style-type: none">・パワートレイン分野での欧米規格対応製品の拡販活動強化、Z-Move™のラインナップの拡充・インフォテインメント分野で、統合ECU向けに次世代高速対応製品、スケーラブルコネクタを投入し市場開拓・センサー分野において、ケル株式会社との共同開発による新製品の早期量産化(25年度以降) <p>[インダストリアル市場]</p> <ul style="list-style-type: none">・エネルギーマネジメント分野での売上拡大推進、AI、半導体製造装置、通信分野の新規開拓・24年度に契約したArrow社等の販売代理店活用による新規顧客開拓推進 <p>[全市場]</p> <ul style="list-style-type: none">・中国国内での製販技の一体体制を強化し、中国顧客を拡大
経営 基盤 強化	<p>[全社組織再編]</p> <ul style="list-style-type: none">・秋田工場の立上げ加速による生産性向上および生産体制の見直し(BCP、地産地消、関税)・設備・金型の標準化、金型内製化の推進・本社組織の機能見直し、DX推進を行い間接部門の生産性向上 <p>[業務効率改善]</p> <ul style="list-style-type: none">・新ERPを活用した業務標準化とサプライチェーンの可視化による間接コスト削減・設備標準化、金型内製化の拡大による設備投資効率向上、固定費圧縮

7. 中期経営計画 注力分野・市場の対応状況

注力分野・市場	中期経営計画重点施策	対応状況
パワートレイン分野	<ul style="list-style-type: none"> ➤ W/W展開に向けた製品開発と販売強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ BMS向けWtoBコネクタの欧州規格対応品の量産開始 ➤ Z-Move™のラインナップの拡充、Unit-able™コネクタ量産準備中
インフォテインメント分野	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市場を読み・リードする製品開発と供給 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 統合ECU向けに高速伝送対応可動BtoBコネクタ現行世代製品の拡販、同時に次世代製品の量産準備中
センサー分野	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 共同開発等によるカメラ事業再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高周波小型同軸防水コネクタをケル株式会社と共同開発進捗中。25年度以降の量産を目指す <div data-bbox="1888 943 2283 1115" style="text-align: right;">  </div>
インダストリアル市場	<ul style="list-style-type: none"> ➤ グローバル展開と製品拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Arrow社と契約締結実施し、販売チャネルを拡大中 ➤ エネルギーマネジメント分野で拡販実現

8. 中期経営計画 重点項目の対応状況

重点項目	中期経営計画重点施策	対応状況
モノづくり力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 生産性・稼働率向上 ➢ 設備・金型の共有化、コスト削減 ➢ 資材費低減、設計VE 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 型取数増加を中心とした生産性の向上 ➢ 設備・金型設計で標準化実施、DX化、内製金型によるコスト低減 ➢ 原材料ローカル化による調達コスト削減、省金めつき等の設計VEにより原価低減
キャッシュ創出と キャピタルアロケーション	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 営業CFマージン率20%超の継続実現 ➢ 成長投資と株主還元のバランスを取り、配当性向40%超またはDOE5%を目標に株主還元 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 24年度営業CFマージン率は21.4% ➢ 成長投資は57億円実施 ➢ 自己株式取得(2.2百万株)により株主還元を強化、配当性向も40%超を維持
サステナブル経営の 深耕	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 人と環境にやさしい経営 ➢ 多様な人財作り ➢ 経営基盤の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ CDPスコア「B」を取得 ➢ 茨城工場を100%グリーン電力化 ➢ 社内公募制度開始により組織活性化するなど人財育成プランを推進



I. 2024年度 業績概要

II. 2025年度 業績見通し

 III. トピックス

■ケル株式会社と車載用小型同軸コネクタを共同開発中

- ・自動運転技術の高度化、SDV(Software Defined Vehicle)の開発の加速に伴い要求される高速伝送・広帯域化に対応した車載用同軸コネクタの需要に応えるべく、ケル株式会社と車載用小型同軸コネクタの試作開発のための共同研究・開発中
- ・9GHzまで対応した高周波特性と小型・小径化によりECU等への高密度実装と適切なハーネス配策を実現させることが可能
- ・既存製品と合わせたソリューションでセンサー分野の売上拡大を狙う



■秋田工場が稼働開始（2025年4月1日）

- ・グローバルで6拠点目、日本で2拠点目の生産拠点
- ・BCPや地産地消推進という当初の目的に加え、構造改革に伴う各生産拠点の役割の見直しや米国の関税政策を踏まえ、他地域の工場から設備を移管し、立上げを加速



会社名	：	イリソ電子工業株式会社
事業内容	：	各種コネクタの製造・販売
設立年月	：	1966年12月
社員数	：	2,936名(2025年3月31日現在)
資本金	：	5,640百万円(2025年3月31日現在)
本社	：	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営業拠点 国内 海外	：	本社、福島県、愛知県、大阪府 シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国(上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶)、台湾、インド
研究開発	：	本社(イリソテクノロジーパーク)、川崎(生産技術センター)、岩手県(花巻工場)、 上海R&Dセンター
工場	：	茨城県、秋田県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

IFコネクタ

IFとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみを依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します
Together, surpassing expectations by empowering connections
to enrich society and delight people.